

2025 年度 自己点検・評価結果

日本語教員養成課程

1. 点検・評価の方法

本自己点検・評価は、言語教育プログラム可視化テンプレートを用いて以下の4つの観点から現状を把握し、その結果を文部科学省の「養成業務規定策定基準 12」に示される項目ごとに整理したものである。

- a. 社会的背景および基本理念・使命・目標とプログラムの現状
- b. 「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」の各リソース（資源）の現状
- c. 学習・教育の活動内容の適切性
- d. 上記 a、b、c に基づいた本課程の成果と課題

2. 評価項目と結果

(1) 養成課程の内容	平成 31 年に報告された日本語教師に求められる資質・能力を養うための必須教育内容を修得できるよう、カリキュラムが体系的に構成されている。
(2) 教授体制	各科目の担当教員は本学の採用審査を経て任用されており、それぞれの専門分野に応じた科目を担当している。専門性を有する教員が適切に配置されていると評価できる。また、学内の FD 活動を通じて、教員として必要な自己研鑽の機会が確保されている。
(3) 施設および設備	大学設置基準を充足しており、教室を含む教育施設は十分に整備されている。加えて、日本語教育に関する専門書籍や教材等は、大学の図書館に加え、日本語教員養成プログラム用図書室（大学院と共有）にも配架されている。
(4) 受講者の評価	本学の授業評価を通じて、個々の授業へのフィードバックは実施されている。しかし、本課程全体のカリキュラムや運営体制に特化した評価の仕組みは、まだ十分に整備されていない。

3. 総合評価と課題

文部科学省の登録認定申請に向けたカリキュラムの改編が一通り完成した。大きな成果としては、必修科目においてコアカリキュラムに定める5つの領域を科目で

分担し、同一科目については基本的に同一シラバスとし、開講時間、担当教員による修得内容に差異が出ないものに変えることができた点である。今後は、新カリキュラムの実際の運用状況を確認するとともに、受講者からの課程全体に対する評価のあり方についても検討し、必要な見直しを行う。

以上

参考資料

履修者数、修了者数

